

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	今村 信子
論文担当者	主 査 鈴木 敬一郎
	副 査 小山 英則
	副 査 廣田 誠一
学位論文名	Yokukansan suppresses gastric hypersensitivity and eosinophil-associated microinflammation in rats with functional dyspepsia (機能性ディスペプシアモデルラットの胃知覚過敏及び好酸球関連微小炎症に対する抑肝散の効果)
論文審査の結果の要旨 機能性ディスペプシア (FD) について最近の研究では胃の知覚過敏と運動機能異常が、FD 症状を引き起こす主な原因と考えられているが、なぜそれらの生理学的異常を引き起こすのかについての病態は不明であった。近年、十二指腸に好酸球を中心とする細胞浸潤 (微小炎症) が生じていることが示され、根本的な病態ではないかと考えられてきている。また一部の漢方薬は FD に有効であり、その中でも抑肝散の効果が期待されているが、抑肝散の FD の病態生理に与える影響は検討されていない。本研究では、母子分離ストレス誘発 FD モデルラットを用いて、胃の知覚過敏と、胃運動機能、胃・十二指腸の微小炎症に対する抑肝散の効果が検討された。新生児 SD ラットを生後 1 日目から 10 日目まで 1 日 2 時間母親から分離することで、母子分離 (MS) ストレス誘発 FD 疾患病態類似モデルラットを作成した。この 7～8 週齢のラットに抑肝散を 5 mL/kg (1 g/kg) の容量で 7 日間連続で経口投与した。その結果、抑肝散投与は、MS ストレスによる胃知覚過敏を抑制し、脊髄の p-ERK1/2 の上昇を減少させた。胃、十二指腸では、抑肝散は好酸球に関連した微小炎症を抑制したが、胃排出の遅延は改善されなかった。本研究の結果から、抑肝散が、MS ストレス誘発 FD モデルラットの胃・十二指腸粘膜の好酸球浸潤を制御することで、胃知覚過敏を抑制した可能性が示唆された。抑肝散は FD 患者の心窩部痛および微小炎症に対する臨床的な治療選択肢となる可能性がある。重要かつ新たな知見であり、学位の授与に値する。	